

就労と健康・生活に関する調査

調査報告書

調査ご協力へのお礼とご報告

この度は介護現場での就労がご本人の生活状況や健康に及ぼす影響を明らかにするために、町田市介護人材バンクの登録者の方々を対象に、2023年6～7月にアンケート調査を実施しました。

次ページ以降に本調査の結果を抜粋してお示しいたします。今回の調査では、介護現場での仕事に携わっている方は、自分と異なる世代の方と交流する頻度が高いことや、自らが将来的に要介護になりうることへの不安が低いことがわかりました。また、どなたかと一緒に作業したり、施設を利用される高齢者と会話したりする介護助手の方は、孤独を感じるものが少なく、他者に貢献したいという思いが強いことも特徴でした。

調査結果をご覧いただき、今後の事業所の運営に役立てていただけましたら幸いです。

東京都健康長寿医療センター研究所

2024年5月

目次

調査の概要	2
回答者の概要	3
介護助手として働くことと、生活状況や健康状態との関連	4
主観的健康感	
将来の介護の不安	
世代継承的達成感	
多世代との交流頻度	
介護助手として働く環境と心身の健康状態との関連	9
作業をしている時の環境	
施設を利用されている高齢者との会話	
まとめ	11

調査の概要

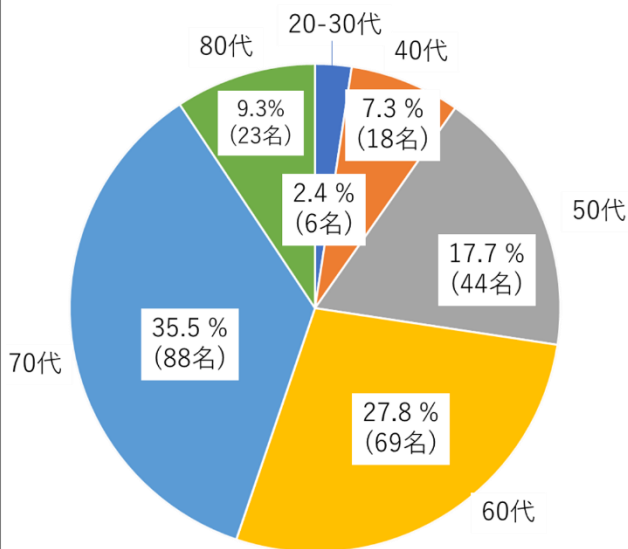
- ・ 目的：
介護現場での就労が健康に及ぼす影響を明らかにすること。
 - ・ 調査期間：
2023年6～7月頃
 - ・ 調査対象地域：
東京都町田市、兵庫県宝塚市、大阪府摂津市
-
- ・ 本調査における「介護助手」：
主に施設利用者の身体に直接触れない介護の周辺業務（ベッドメイキング、配膳、清掃、話し相手や見守り、レクリエーションの実施・補助など）を担う方
 - ・ 本調査における「介護関係」：
介護助手以外の、介護に関わる業務を担う方

回答者の概要

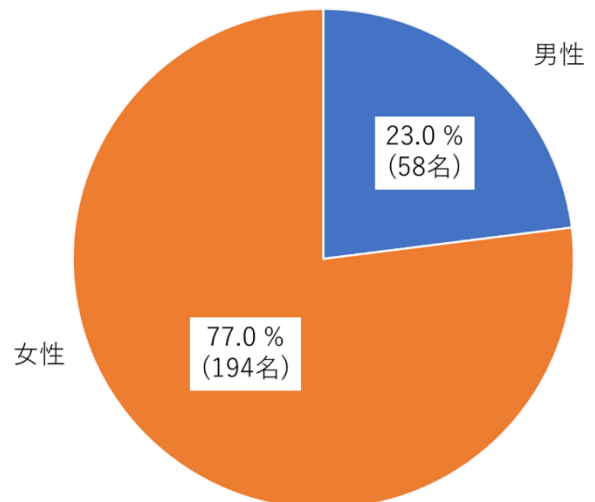
町田市・宝塚市・摂津市で合計 252 名（町田市 229 名、宝塚市 13 名、摂津市 10 名）より回答が得られました。回答者の詳細は以下のとおりです。

【回答者の基本属性】

<年代>

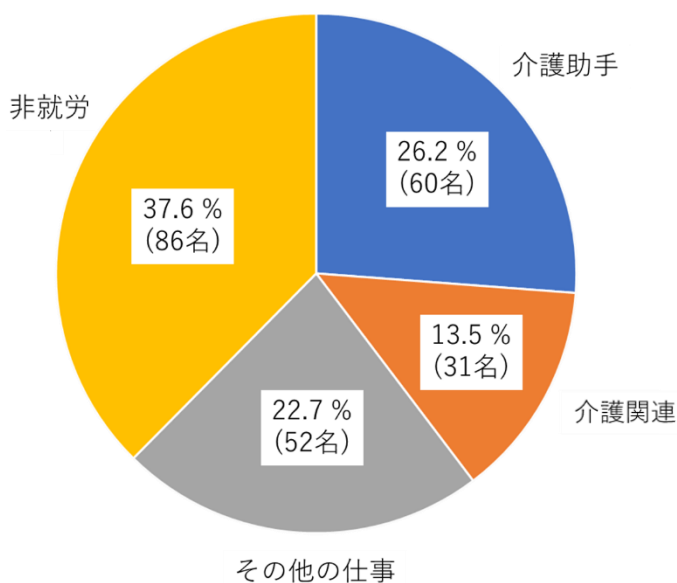


<性別>

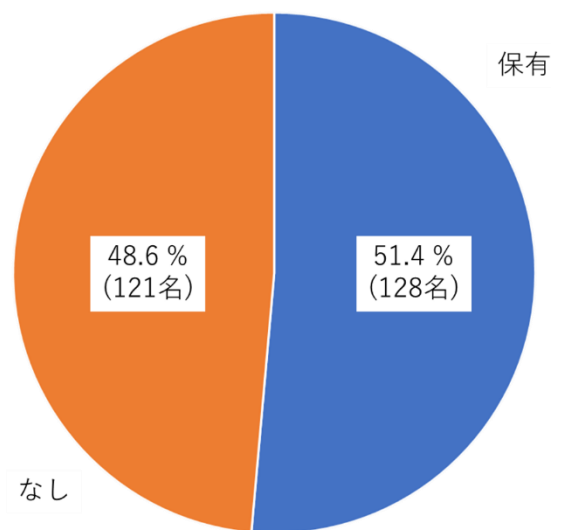


全体の半数近くが 70 代以上、3/4 が女性でした。

<就労状況>



<介護関連の資格>

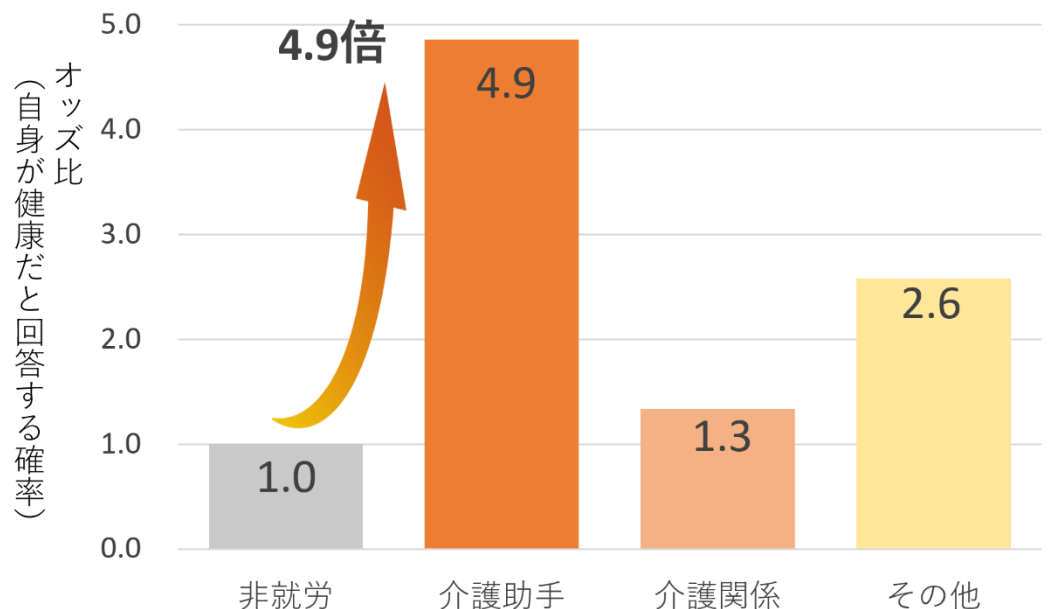
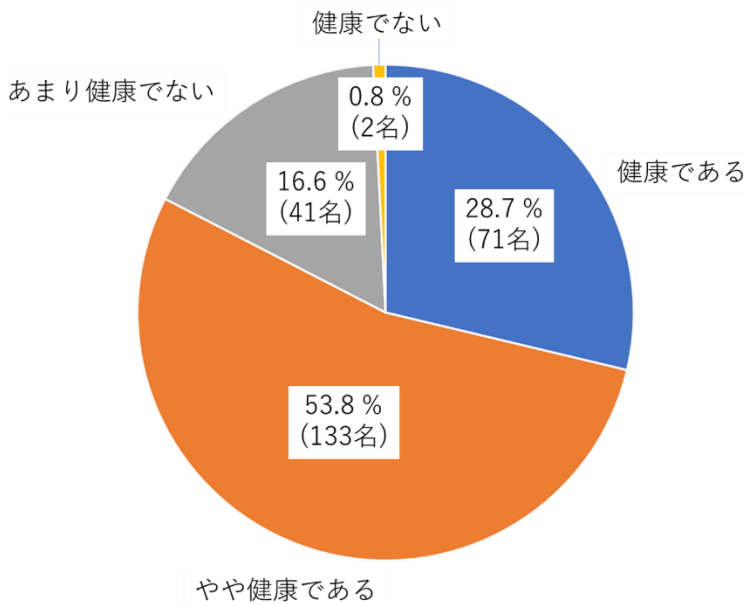


全体の 3 割近くが介護助手で、半数が介護関連資格をお持ちでした。

介護助手として働くことと、生活状況や健康状態との関連

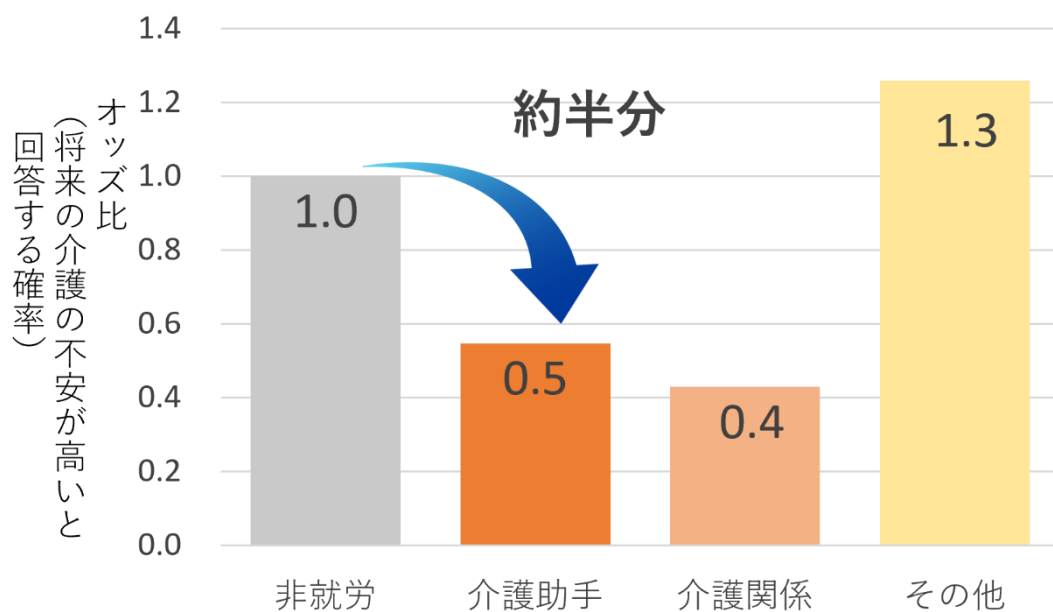
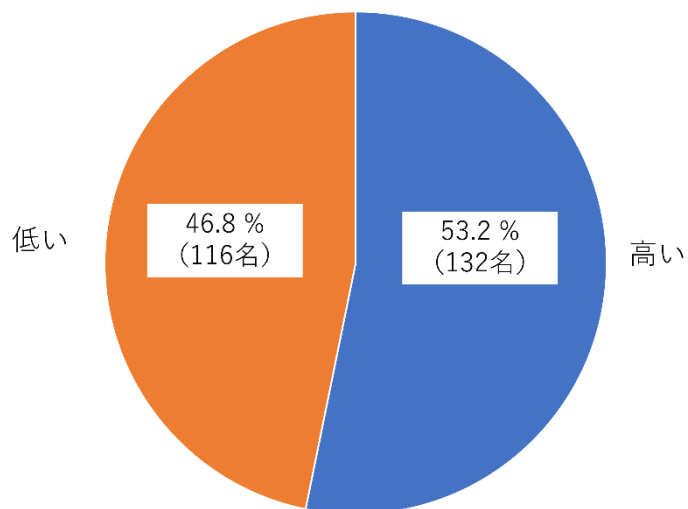
主観的健康感、将来の介護の不安、世代継承的達成感、若い世代との交流頻度、年上世代との交流頻度への影響が、就業状況により異なるかを分析しました。

主観的健康感（自身が健康だと感じること）



非就労の方と比較して、介護助手の仕事をしている方は、主観的健康感が高いことがわかりました。介護関係やその他の仕事と比較しても、大幅に高い結果でした。

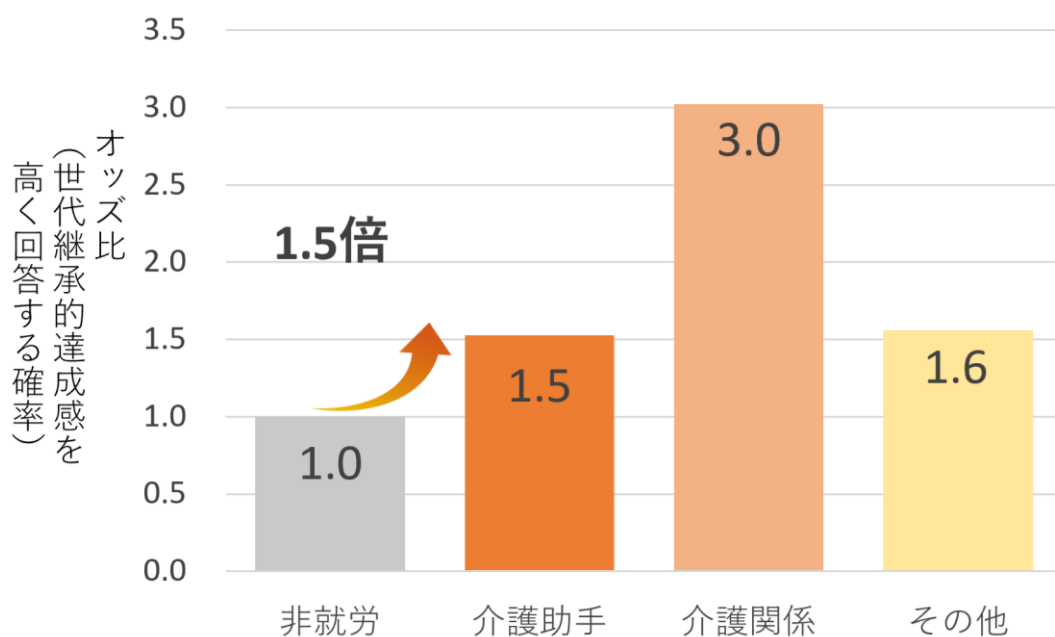
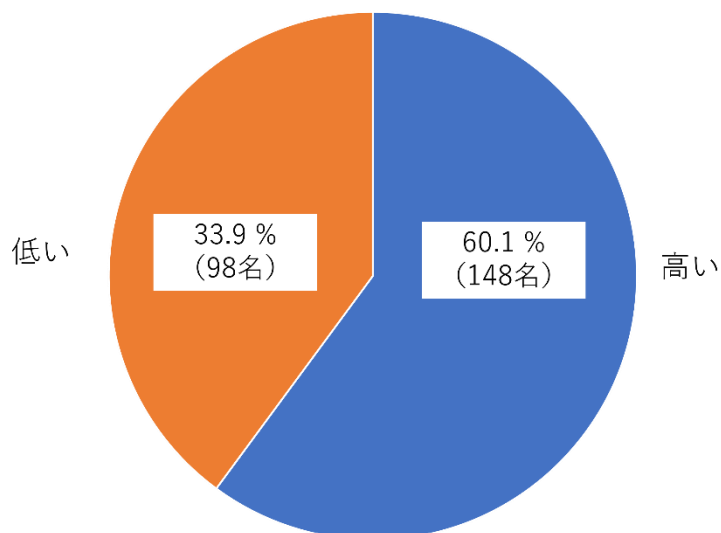
将来の介護の不安



非就労の方と比較して、介護関係の仕事をしている方は将来の介護に対する不安が低い傾向にありました。同様に、介護関係の仕事をしている方も、介護に対する不安が非就労の方よりも低い傾向にありました。

世代継承的達成感

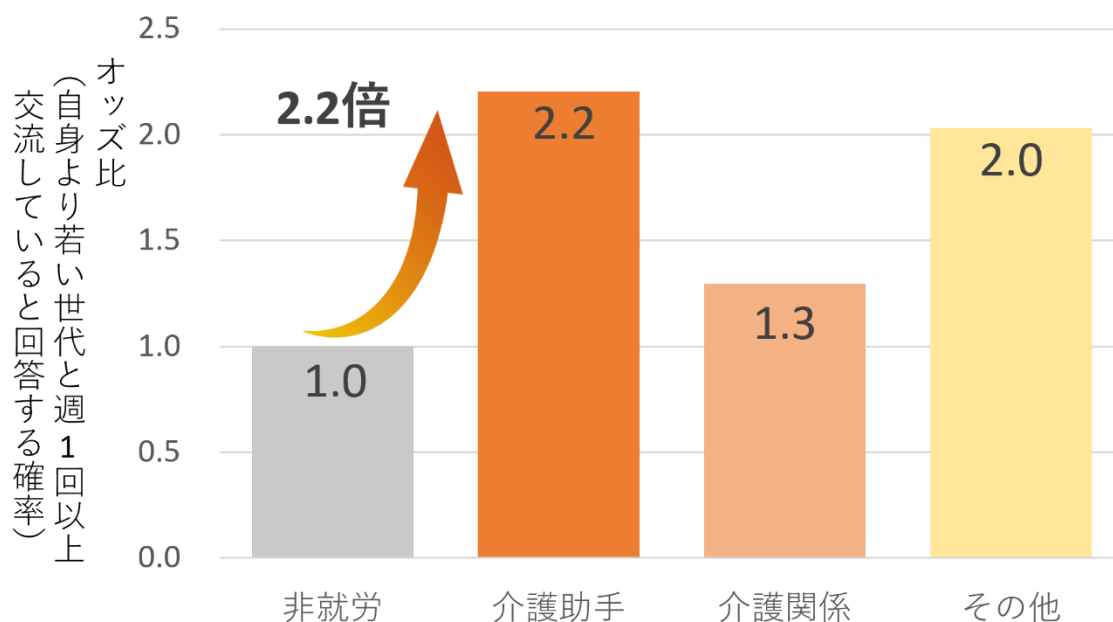
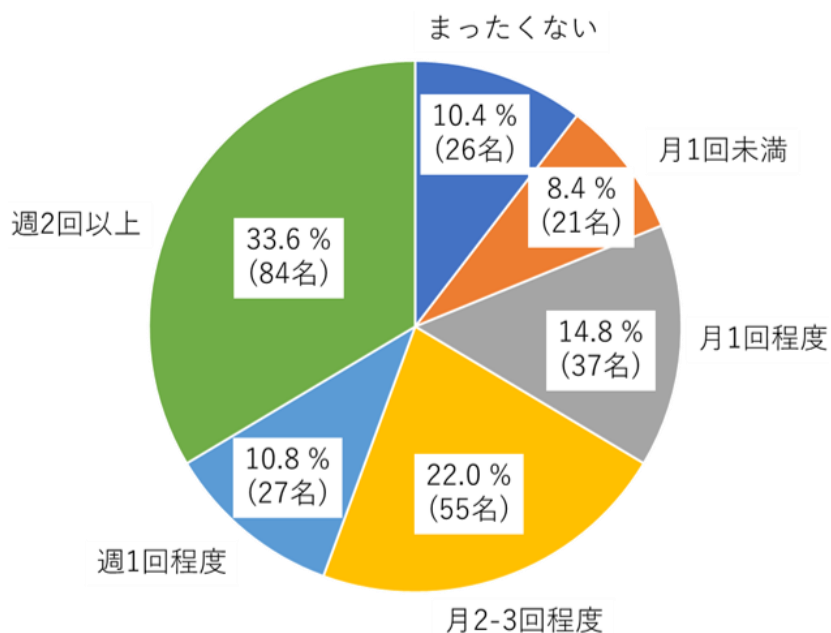
(他者や社会への貢献や、後世に継承されるような物事に携わっていることへの実感)



非就労の方と比較して、介護関係の仕事をしている方は世代継承的達成感が高いことがわかりました。介護助手の仕事をしている方も、介護関係の仕事をしている方ほどではありませんが、非就労の方より得点が高い傾向にありました。

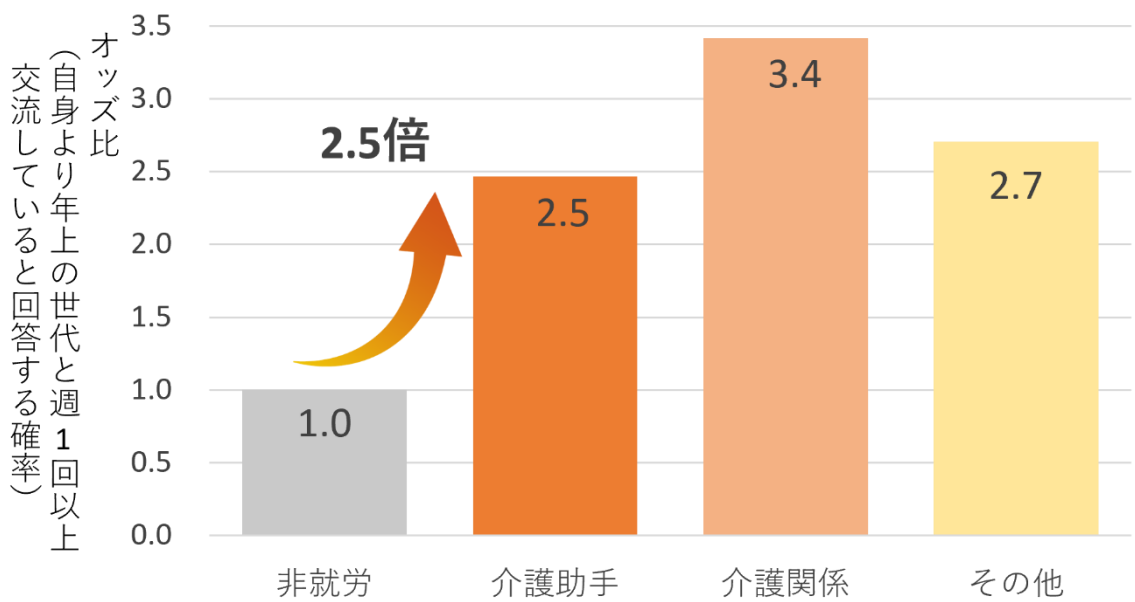
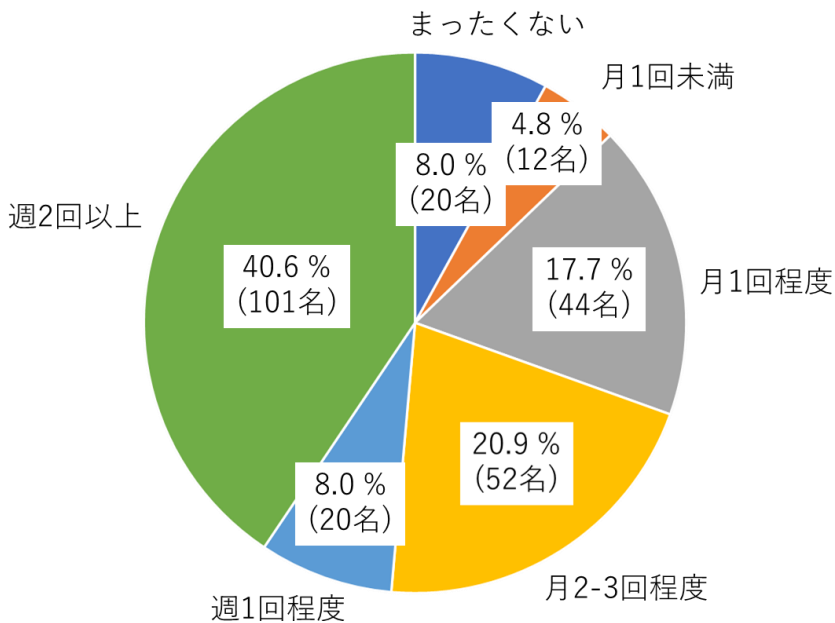
他世代との交流頻度（週1回以上）

【若い世代との交流】



非就労の方と比較して、介護助手の仕事をしている方は、若い世代と交流する頻度が高く、介護関係と比較しても高いことがわかりました。

【年上世代との交流】



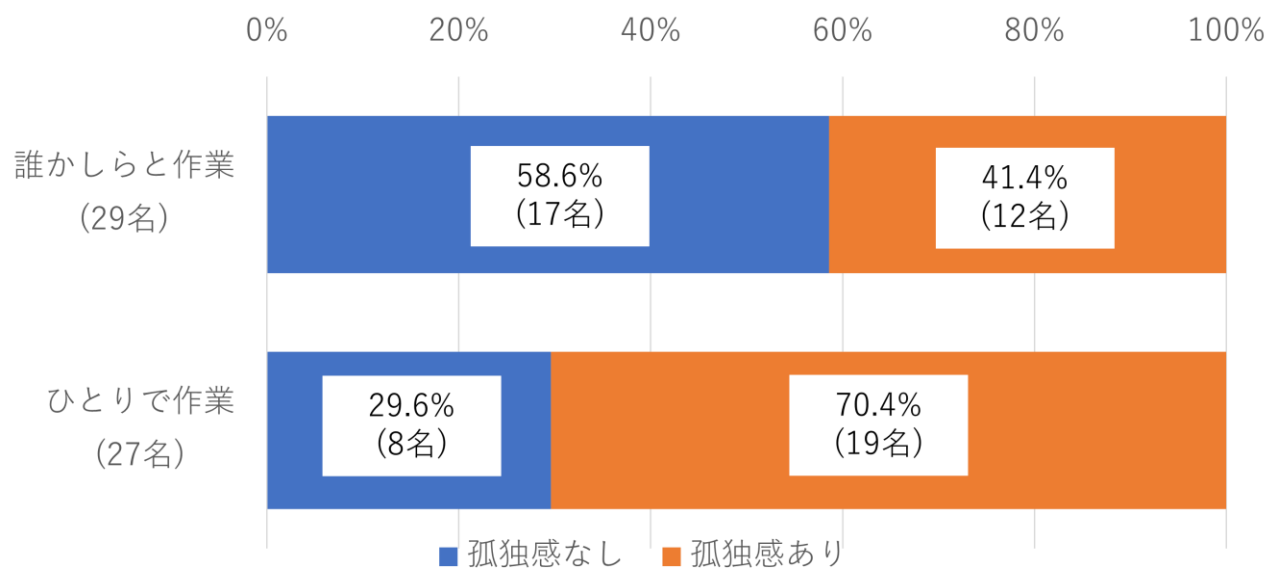
非就労の方と比較して、介護助手の仕事をしている方は、年上世代と交流する頻度が高いことがわかりました。

介護助手として働く環境と心身の健康状態との関連

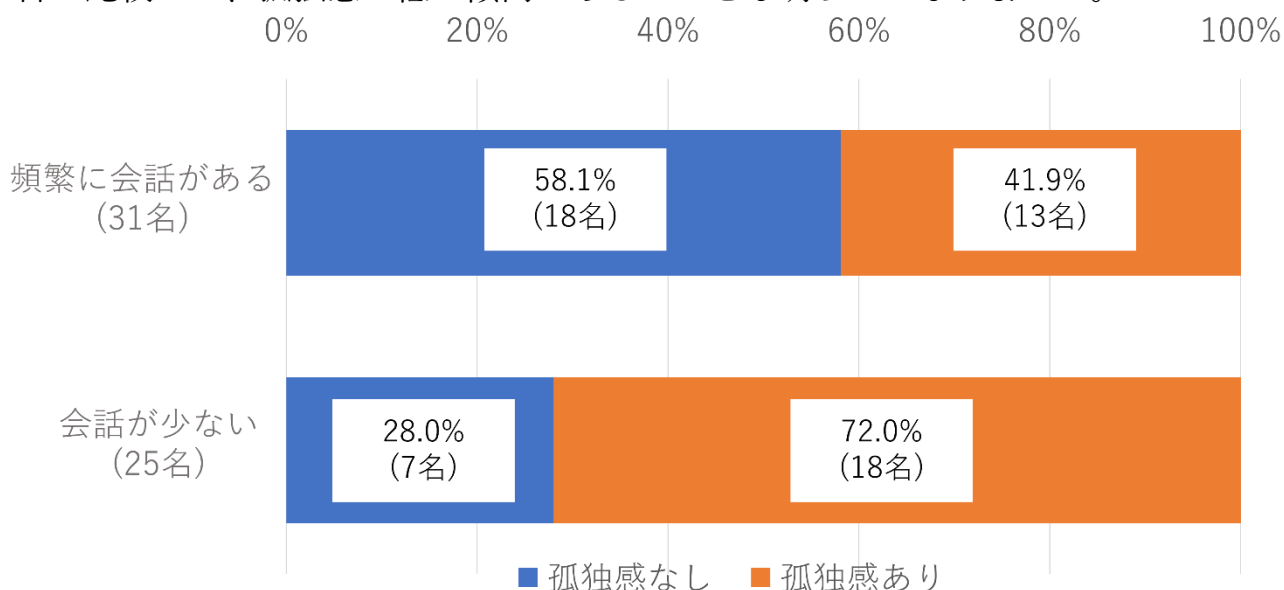
ここからは介護助手の方（60名）にご回答いただいた内容に絞り、現在介護助手として働いている環境と、心と体の健康状態についての結果をお示しします。

作業をしている時の環境

介護助手として仕事をしている際の環境について、どなたかと作業を一緒にしている方は、おひとりで作業に取り組まれるより、孤独感が低いことが分かりました。

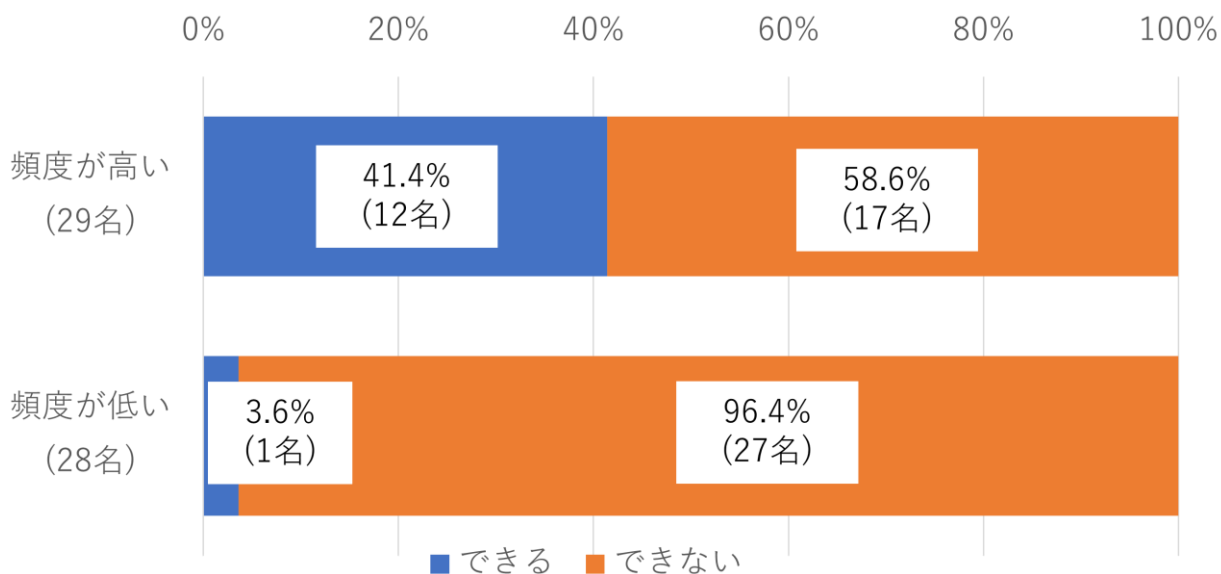


同様に、介護職員の方と頻繁に会話がある方は、介護職員の方と会話が少ない場合と比較して、孤独感が低い傾向にあることをも明らかになりました。

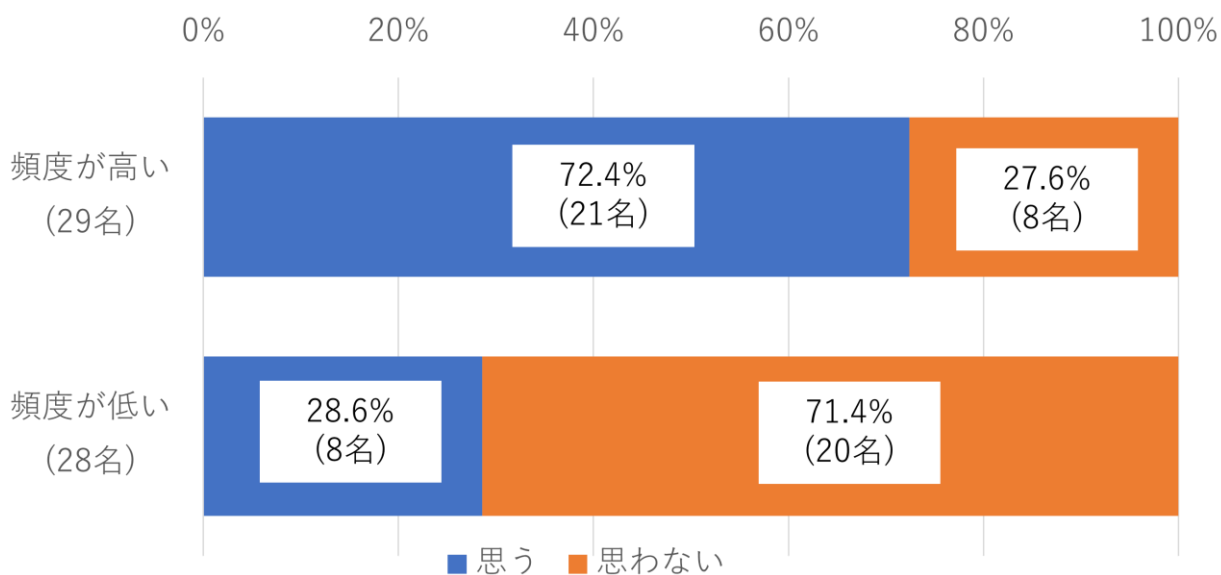


施設を利用されている高齢者との会話

施設を利用されている高齢者との会話について、会話する頻度が高い方は、会話をする頻度が低い方と比べて、ご自身に介護が必要になった時のことをイメージできていることが分かりました。



また、会話をする頻度が高い方は、会話する頻度が低い方と比べて、日常生活のお困りごとを抱えた方がいたら手助けをしてあげたいと思う傾向にありました。



まとめ

以上のように、介護現場での仕事に携わっている方は非就労の方よりも、自らの将来の介護に対する不安感が低いこと、他者や社会への強い貢献意識を感じていること、自らよりも年上の世代と交流する頻度が高いことが分かりました。自らの働く施設の利用者と接する中で、利用者の日常生活に貢献している実感を覚えたり、自身がもし介護が必要になっても温かいサポートが受けられるという安心感に繋がったりしていることが示唆されました。

また、非就労の方のみならず、介護関係の仕事や他の職種に就いている方と比べても、介護助手の方々は自らを健康だと感じる方が多く、若い世代と交流する頻度が高いことも特徴的でした。直接的な介護を伴わない周辺業務であっても、介護現場での就労を通じてご本人の健康に好ましい影響が期待できることが明らかになりました。

介護現場との接点のある仕事に就く、あるいは介護助手として働くメリットについて明らかになりましたが、心身の健康に及ぼす影響は介護助手の方が働く環境にも左右されることがわかりました。まず特筆すべきは、職場の環境が孤独感と関連した点です。介護助手として働く方々が、おひとりで作業することが多いのか、他の介護助手や職員の方々と仕事をすることが多いのかは、現場の状況によって様々かと思えます。

また、誰かしらと作業をしたり、介護職員の方と会話する機会が頻繁にあったりする介護助手の方は、そうでない介護助手の方よりも心の健康状態が良いことも示唆されました。さらに、介護助手同士や職員との交流以外でも、入所されている高齢者と交流することで、介護助手の方自身が将来介護を要することになった時のことがイメージできたり、他者への貢献意識と関連したりすることがわかりました。総じて、職場において介護助手の方が周囲と交流できる環境を作ることが大切といえます。